

山口県北部田万川陥没構造周辺の帯磁率調査

Susceptibility survey of the Tamagawa Cauldron area, Yamaguchi, Japan

森尻 理恵[1]

Rie Morijiri[1]

[1] 産総研

[1] GSJ,AIST

萩市を中心とした山口県の日本海側で、2002年と2003年に133点の帯磁率測定を行った。これは、地質調査総合センターが発行している20万分の1重力図シリーズのうちの「山口」の作成のために行っている重力補足測定の際、重力測定点の付近に適当な露頭があった場合に、ポータブル帯磁率計（SM30, ZH-instrument社）を使用して帯磁率を測定するというものである。帯磁率測定はあくまでも重力測定の合間に行ったので、必ずしも最適な分布ではないが、やや面的なカバーができた。田万川陥没構造は、概ね山口県田万川町の田添（131°42'E、34°34'N付近）を中心とし、北東-南西方向を長軸として長径約14km、短径約7kmの楕円形をしている（村上,1973）。この地域では、昭和44年に金属鉱業事業団によって、山口県萩市の東、阿武町から、島根県益田市にかけて、広域空中磁気探査が実施されており（平沢,1971）田万川陥没構造に対応して高磁気異常が見られる。地質学的には、田万川陥没構造を埋めて火山岩類が見られるので、高磁気異常は、これらの火山岩類が原因と解釈されている。帯磁率の高い点の分布もそれを裏付けている。

文献

平沢清（1971）益田地域における空中磁気探査について。物理探鉱 24, 284-290

村上允英（1973）古第三紀田万川陥没体の形成機構に関する一考察。地質学論集 9, 93-105